１３年３月本文他

本文

**もうすぐ春ですねえ～**

　読んで字の如く、「雨水」とは陽気地上に発し、雪氷解けて雨水になればなり」。

　それも、確か２月18日でしたから、もう鶯の初鳴きなんか聞ける頃と思うのですが、とんでもない、先日のウェザーニュースでは、“今世紀最強クラス”の寒波襲来とあり、山形新幹線の「つばさ」も、翼をもがれて立ち往生したとのことですから、今年の二月は厳寒の最たるものだったのでしょう。

　地球温暖化の懸念の中にあっての珍現象で、何とも表現しがたい“妙な感覚”に浸ったのですが、“今世紀最強”と言っても、そもそも今世紀は十数年しかたっていないんですよねえ～。つまるところ、我が“ご幼少の砌”はもっと寒かったのですよ。

へそ曲がりの質問ですが、気象庁の観測記録をたどれば、どの位のランクに相当するのでしょうか？

　それにしても、２月は、たかだか、高尾山とか奥多摩の御嶽山でさえ一時は凍結により軽アイゼンが必要と言われましたし、寒さが引き金のインフルエンザが蔓延したりして、厳寒、降雪と凍結、そして流感の三重苦。

いくらメタボ解消とは言え、2月の山行計画は散々たるものでした。

　2月16日、練馬の最低気温は－2.4℃で最高は5.2℃、そして最大風速16.8m。
そんな中、OB会山歩き会の、(勝手に)選りすぐられた精鋭？たった5人。

急きょ求めた、“アイゼンの出番だな！！”なんて武者震いして電車の人となったのは良いとして、“日にちと時間違えたのかな？”と不安募ったのも当然。何と参加者が半減以下、それも、むくつけき野郎ばかり。山ガール抜きだと発揮されるのは男同士の揺るぎ無い絆なのだ～。

お山は、下界の冬の嵐を尻目に無風。冬の陽光燦々として、澄み切った大気の先にはスカイツリー。「ざまあご覧あそばせ！！！」
　“ゆっくり・焦らず・歩幅を小さく”を地で行き、無事帰還と相成った次第です。

1月山行が荒天で順延となって2月にはもう一度。行き先も鎌倉源氏山コースに変わり、ゆっくり、のんびりと、早春の花、蝋梅だのマンサクだのを楽しんでまいりました。本ホームページギャラリー欄に載せさせていただきます。

上述させていただきましたように、今年に入ってからでも１月２日の単独御嶽登山と、仲間とのメタボ解消登山二回。それに加えて、拙宅を起点・終点とする一万歩歩行を意識的にやったおかげで、メタボリックシンドローム判定が、昨年までの「基準該当」、つまり落第生から、今年は、「予備軍該当」に昇格いたしました。

聞き及ぶところでは、腹囲85㎝以上が第一関門。あとは血圧、脂質、血糖三要素の内二つ以上が規格外ならば「基準」（落第）に該当し、一つなら予備軍該当となる由で、要するに、腹囲が範囲内であればあとの三つが落第でも「該当せず」となるのだそう？で、腹囲85㎝となれば無罪放免なのだそうです。

所が、腹囲85㎝クリアーが何とも難しい。不肖この私、こんなに登って歩いているのに、一昨年は90.2、昨年が88.5、そして今年が88.0㎝。二年で減ったのが僅か２㎝だから。あとの３㎝が如何に厳しいかは自明の理。

これが達成には、残っている選択肢はただ一つ。節酒・断酒以外にないのだ。

頭脳はともかく、これ以上頑丈な肝臓はない位に生んでいただいた両親に感謝することしきりです。

蛇足ですが、表題部に掲げた二羽の鳥の名はカルガモ？らしいまでは分かったのですが、水中に首を突っ込んでいる鳥の名前なんか、「言い当てる訳がないじゃないか」。と、その道のプロに叱られました。

２月１日の日本野鳥の会フォトギャラリーに拙作のヒヨドリが入選したのは先月紹介いたしましたが、ひょっとしたらこのカルガモ？も。なんて悪乗り寸前でしたが、鳥全体の姿が写っていないと採用されないことも分かりました。だた、同時に、一羽だけでも水面上にあれば入選かもね。なんてけなされたのか褒められたのか？

「頭隠して尻隠さず」との諺がありますが、かく申す私目も名乗ることなしに本ホームページ出しちゃったりして、“人後に落ちる”でなく、“鳥尾に落ちる”体たらくなのでしょうか？“人後に落ちない”はあっても、“人後に落ちる”なんて言葉ありましたっけ？

ご参考のために、「頭隠して尻隠さず」。諺の鳥は、雉(ｷｼﾞ)だそうですよ。

1. 098-4205　入選したヒヨドリ

　先月号で、飛来してきたヒヨドリを写すチャンスに恵まれ、興奮して震える指先でシャッター押す事２回。東京湾岸の鉄鋼団地ですから殺風景で、背景の緑も森も木々も、空も雲も水の流れすらない。手すりに留まったほんの数秒間。

　でも、自分でも驚く位の出来栄え。

野鳥なんてこれっぽっちの関心もなかったのに・・・。病み付きになりそう。

野鳥を撮りまくっている愚弟に聞いた野鳥撮影三カ条

①　野鳥飛来場所を熟知できる伝手がある（日本野鳥の会他の鳥仲間？）

②　運と根気

③　最後にカメラの性能、特にレンズ

恥ずかしながら、①も②も通り越して先ず考えたのは、“良いレンズ買わなくっちゃ”でしたが、三脚と一緒に担ぐととんでもない重量感だそうで、レンズを通すと視野が狭くなるから鳥そのものを画面に収める、その上、絶えず動き回るので大変。しかも、レンズの値段は軽自動車一台分だよ！！と脅かされる始末。

①について：群れを成して、仰々しい格好して野鳥追いかけるスタイルは好むものではない。

②について：日長一日、じっと野鳥の飛来を待つ根気の持ち合わせは全くない。寒鮒釣りでは一番先に音を上げたのはこの私。

③について：毎日“徘徊”の連れとして、結構重たいカメラ背負っているものの、野鳥撮影道具一式の重さと言ったらこの比ではない由。

果たしてどうなる事やら・・・。

1. 052-2434　つるつる温泉への下山路で

何と！！

　杞憂に終わるとはまさしくこの事。

　御嶽駅に着くとお山は雪化粧してお出迎え。なんとまあ絶好の好天気。

　ケーブル組は御岳ビジターセンターで徒歩組を待ち、一同、参道の階段汗流し流し御嶽神社に着くと冬の陽光さらに暖かく、残雪の眩しさに目細めて気付けば全くの無風。遠い筈の日の出山頂が手に取るように見える。

　折角のアイゼン初体験は、会長のご判断によれば、“今日はギリギリ、まあ、（装着しなくても）良いでしょう”となって、一同、より慎重に歩を進めて日の出山山頂に。

　これは驚き。乾ききった空の先に新宿のビル街やスカイツリーまで遠望できるとは。

「やっぱり、来てよかったね」。とは、男同士。口にこそ出さねども、満足これに勝るものなし。

　下りは慎重に、更に時間かけて、“ゆっくり、焦らず、歩幅を小さく”。

つるつる温泉に至れば湯あみ。ささやかな反省会をして、帰りのバスでは睡魔のなすがままに武蔵五日市到着。

一同無事に、厳冬の山歩き？から生還いたしました。

③　052-2448　都立神代植物公園の蠟梅

昨年２月18日に、都立神代植物公園、梅園で撮った蝋梅です。

昨年も寒く、この時の梅はまだ蕾にもなっていなかったと記憶しています。

④　100-4242　長谷寺のマンサク

２月９日に鎌倉の長谷寺で撮影いたしました。

このマンサクは上の境内にあり、NHKでも紹介されたようですが、当日はまだ半分はつぼみのままでした。

⑤　101-OSCN1749　善福寺

2010年３月14日に、杉並区善福寺公園で撮ったお気に入りの一枚です。

関東地方でも、もうちょっとして春一番が吹くのでしょうか？

春が待たれます